

留学を終えて

聖マリア女学院高等学校 尾関 直生（ニュージーランド）

この1年間のニュージーランドへの留学を通して学んだことはたくさんあります。その中で自分が変わることができたと私が最も胸を張って言えることは、自分の意見を自分の言葉で柔らかくもきちんと述べることができるようになったことです。

私の性格から、私は自分の意思を主張することや、人と衝突することを避ける傾向があり、イエスマンになりやすいところがありました。そのような傾向は、留学先で大きな障害となりました。納得いかずに嫌な思いをしていたときでさえ、私の性格が邪魔をして、また語学力の不足も相まって、反論をするすべもなく、解決に持っていくよりも先に諦めてしまうことの方が多かったです。そのせいで自分の中で消化しきれず、精神的に参ってしまうことも多くありました。そんなときにホストファミリーとうまく折り合いがつかず、特に話し合うこともせず、ホストファミリーを変えようと考えていました。インターナショナルのホームステイ担当の先生から、ホストファミリーと直接よく話すように促され、そこで私が感じているものや不満に思っていることをすべて洗いざらい話しました。その結果、ホストファミリーと私の間でいろいろな勘違いや認識の差が存在していることに気づきました。話す前までは怒られている理由や、なぜこのルールがあるかなど、納得できないことが多く、なんとなく規則を守らされているような受け身の姿勢のときが多かったです。しかし、話し合いを終えたあとは、私のことを考えているからこそそのルールなのであり、こんなにも私のために思ってくださっているからには誠意としてきちんとお返ししようという気持ちが強くなりました。話し合いを経て、すれ違いが解決してからは、思っていることもぶつけ合えるような「本当の家族」になりました。その後も話し合いを続け、より私の生活スタイルに合わせてルール自体を変えてくださいました。またこの経験のように対話し、お互いが歩み寄ることが本当の解決だったのではないかと思います。この経験から気がついたことは、今まで自分がしていたことはただ自分の苦手なことから逃げていただけなのだと気がつきました。留学期間中に、私は逃げずに真正面から人や問題と向き合うことを意識できるようになりました。

留学を終えて、自分の語学力に対しても確固たる自信ができました。初めの数か月間は自分に自信がないあまり、話すことすら緊張して自分の実力を試すこともせずに諦めてしまう場面が多かったです。そのため、成長する兆しもなく、自分がなぜ留学に来ているのかわからなくなり、悩む日が多かったです。そこで私はまず自分に自信をつけるために、成長できる方法を模索し、自主学習などに励んだ結果、自信をつけることができました。その結果、現地の子にも怖気付か



ずに話すことができるようになり、英語も成長しました。またホストファミリーと積極的に話すことを毎日積み重ねた結果、最終的には会話に不自由することはなく、自身をもって英語を話せるようになったと言えるようになりました。

この一年を通して、語学力だけではなく、一人の人間として大いにパワーアップできたと胸を張って言うことができます。

